

# 大雨に伴う農作物等の管理対策

令和元年 7 月 18 日

JA 佐渡営農事業部

新潟地方気象台が 7 月 18 日 5 時 24 分に発表した「大雨に関する新潟県気象情報第 2 号」によると、梅雨前線が北上し、20 日にかけて北陸付近に停滞するため、本県では大雨となる見込みです。

今後の気象情報に注意するとともに、下記の管理対策を参考に農作物等の管理に十分注意してください。

## 水稻について

### 【事後対策】

1. 大雨時は河川への影響を考慮し、水尻は完全に落とさず、一定水位を保った上での排水に努める。
2. 冠水した場合は、できるだけ早く排水を図り、葉先だけでも水面上に出せるよう努める。
3. 浸・冠水した場合は、稲体の弱体化による病虫害の発生が予想されるので、病虫害の早期発見・防除に努める。
4. 浸・冠水した場合は、葉色が上昇する場合があるので、生育の変化に留意し、穂肥の施用量を調節する。

## 園芸について

### 【事後対策】

1. ほ場の停滞水は、根傷みの原因となるので、速やかな排水に努める。
2. マルチ栽培では、一時的にマルチをめくるなどして土壌の速やかな乾燥を図る。
3. 倒伏した株は早急に起こし、茎、果実、花穂等の曲がりを防止する。
4. 浸・冠水により茎葉が汚れた場合は、可能な限り速やかに散水し汚れを落とす。
5. 病害が発生しやすくなるので、発生状況を確認して適切に防除を実施する。
6. 茎葉が傷んだ場合は、草勢回復のため、液肥の葉面散布により追肥を行う。
7. 柿では落葉病・すす点病、西洋なしではセイヨウナシ褐色斑点病、ぶどうではべと病、ももでは灰星病などの感染拡大が懸念されるため、予防に努める。
8. 切り花類や鉢物類では、降雨が続いた後の急激な日射により葉焼け（チップバーン）等が生じやすいので、こまめな遮光資材のかけ外しや換気等により適切な温度・湿度管理に努める。

以上